小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人松友会	代表者	上田　慎子
事業所名	ピースフルライフ さくら草	管理者	島村　英俊

法人・事業所の特徴	・当法人は、入所系サービス（特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム）、居宅系サービス（居宅介護支援、通所介護、短期入所生活介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護）を展開しており、市内東部エリアを担当する地域包括支援センターを構えている。また、移送サービスや地域のコミュニティスペースを実施し、地域の高齢者を包括的に支援できるよう体制を整えている。 ・さくら草小規模多機能型居宅介護はグループホームを併設し、環境の変化による混乱を予防できる入所の運びを備えており、認知症高齢者が安心して利用できる体制。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	0人	1人	1人	0人	2人	2人	12人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み･結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	①　コロナの情勢を見ながら研修参加の機会や頻度を増やし、スタッフの質の向上をはかる。 ②　コロナ禍でもご利用者が「自宅で暮らし続けられる」ための体力・筋力作りや生活能力の維持を目指した事業所つくりとして、歩行練習や買い物の機会を継続する。	①　世の中の感染状況を確認しながら、研修方法（対面、書面、リモート）を選択し質の向上に努めています。 ②　下肢筋力の維持向上を目的として、ラダートレーニングやエキセントリックトレーニングを行っています。また、移動スーパーによる買い物の機会を確保しています。	・フォーマットができている項①②⑦⑧ ・フォーマットが必要な項③④⑤⑥ ・フォーマットの変更が必要な項⑨ ＊フォーマット標準化、○○展開など更により良い方法の研究はいかがですか？ ・是非研修を何らかの方法で継続して頂きたいと思います、 ・コロナ禍でフレイル予防が重要であると思います。コグニサイズや新しいトレーニング方法を取り入れ、ご利用者の体力維持に力を入れている事がわかりました。 ・やりやすい手法（書類、書式、電子メール等）の選び方で更なる向上が可能と思います。 ・この「自己評価」方法は人手不足の業界において負担が大きすぎます。ぜひ「実地指導」方式にしていただいた方がいいと考えます。 ・毎年全員の職員の方々が、ご自	①　ご利用者やご家族の思いに寄り添った支援を心掛けます。また心身機能の維持・向上を目的とした活動を提供いたします。 ②　コロナの状況が大きく改善するには時間が必要と思われます。職員の勉強会や研修については感染状況に見合った方法で参加していきます。

			身の働き方について振り返りをされており、皆様のスキルアップにつながっていると感じます。	
B．事業所のしつらえ・環境	① コロナ感染対策として、来所による見学案内でなくとも、情報が把握しやすいような内容のパンフレットを作成予定。 ② ホームページを活用したコロナ禍の取り組などを含めた事業所紹介を検討。	① 世の中の感染状況により見学する機会が多く持てませんでした。 ② ホームページを活用し最新情報を提供しています。	・外観はきれい、清潔で花壇菜園など好感が持てます。 ・ケアマネージャーがパンフレットを届けて下さり、情報交換を行う事ができた。 ・心地よい空間になっていると思います。	① 清潔感がある外観と整理整頓された室内、イベント写真の掲示により活動内容が伝わってくる設えを行います。 ② 引き続き法人ホームページで、活動写真や事業所情報を提供していきます。
C．事業所と地域のかかわり	① 来所者に感染対策の協力をいただき、事業所見学や相談可能な態勢を継続する。感染予防の観点から、感染拡大時に備えておく。 ② コロナ禍で活用できる地域資源の情報を収集し、さくら草で活用できる資源を広げていく。	① 検温や手指消毒を行っていただき、ご利用者と距離をとったうえで実施いたしました。また、感染者が急増した期間は見学や相談を中止いたしました。 ② 移動スーパーに来て頂き、買物する喜びや地域と繋がっている場を提供しています。	・移動スーパーは見学しましたが、大変良い活動とおもいます。 ・移動スーパーを利用し、地域の方々もご利用できるという試みをされていると知りました。包括からもぜひご利用者様に紹介させて頂きたいです。	① 検温や手指消毒など基本的な感染対応を実施、コロナの感染状況に見合った方法で見学を行います。 ② 現在利用している地域資源は継続するとともに、新たな地域資源を広げていきます。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者がコロナ禍でも安心して自宅で暮らし続けるために、ご利用者の筋力維持、向上をはかる。イベントやご利用者が参加しているミニサロンの再開等に備える。	下肢筋力の維持向上を目的として、ラダートレーニングやエキセントリックトレーニングを行っています。	・今後「100 歳体操」と沖で始めます（南部包括主催）ご利用の意思があればご相談ください。 ・親しみのある風景を見たり、季節の花々や行事に親しむことは脳の活性化や QOL を高める大切な事なので、さくら草に通われているご利用者やご家族にとって、とても楽しみにされている事と思います。再開する事ができて、皆様とても喜ばれると思います。 ・さくら草内のイベントの工夫、実施状況に敬服いたします。	高齢者の感染後のリスクを考えると、地域に出向いての活動には多角的に検討する必要があります。今は施設内で実施できることを積極的に取り組んでいきます。

E．運営推進会議を活かした取組み	① 感染状況にもよるが、令和 4 年度は会議開催を予定し、直接的な意見聴取、交換を行う。 ② コロナ禍における地域のニーズを把握し、事業所運営に活かしていく。	① 未だに感染状況が改善しないため、状況に見合った会議方法（対面、書面）を選択しています。 ② コロナ禍で地域活動が実施できていないので、事業所運営に活かすことができませんでした。	・対面会議がそろそろ出来ると思うが？（南コミュニティセンターの利用も可能と思う）	感染に対する予防方法が明確化されてきましたので、対面会議の再開を検討していきます。
F．事業所の防災・災害対策	① 福祉避難所として、コロナ禍における災害時の課題を抽出、確認し、受け入れ時の体制確保に努める。 ② コロナ禍での避難方法の確保、地域の方との連携を構築する。	① ② 現在、市の障害福祉課を中心に、福祉避難所の運営マニュアルについて検討している段階です。	なし	防災に関しては定期的な訓練を今後も実施していきますが、2024 年 4 月より業務継続計画（BCP）が義務化されます。自然災害や感染等による緊急事態を想定した訓練も追加されますので準備していきます。